

第2回静岡県行政経営戦略会議 議事要旨

日 時：令和7年7月28日（月）15:00～17:00

会 場：県庁別館9階特別第一会議室

出席者：根本座長、小黒委員、河田委員、出縄委員、丸山委員、山室委員

事務局：平木副知事、山田財務部長ほか

論点1 今後のファシリティマネジメントのあり方

- ・今後30年間で約25%の減少が見込まれる人口動向や実質公債費比率の上昇リスクを抱える厳しい財政状況を踏まえながら、施設管理を進めていくことが重要である。
- ・従来のフロー管理を重視する体制を改めて、ストックの価値を高める経営へ転換することが重要ではないか。
- ・単に年間の維持管理費を抑制するのではなく、県が保有する土地や公共施設、収益資産をポートフォリオとして一括管理し、ストック価値を最大化する取組が求められる。その際、施設の利用頻度や地域防災上の重要性、ライフサイクルコストの効率性という三つの軸で評価を行い、ランク付けする仕組みが必要である。
- ・県が運営を抱え込むのではなく、専門性を有する民間企業やファンドに運営を委譲し、県は目標と規律を示す司令塔としての役割に徹することも検討すべきである。県主導の不動産ファンドを設立し、その運営を民間に委ね、市場メカニズムを活用することを提案する。
- ・将来の大規模修繕に必要な費用を見込んで積み立てておくことが必要ではないか。その資金はファンドのエクイティを発行して調達できるのではないか。
- ・「稼ぐまちづくり」と「持続可能な財政」を両立させる空間戦略を上位に据え、民間資金や人材、知恵を大胆に活用していくことが、県の持続可能な発展に必要ではないか。

論点2 施設の総量適正化

- ・「延床面積を30年間で20%削減する」という目標を掲げているが、人口減少、税収の減少が見込まれる中で「20%削減」という目標で十分なのか。
- ・「延床面積を30年間で20%削減する」という目標は、建築物だけに焦点を当てている。インフラを含めて公共施設等全般について、総量適正化や有効活用等の七つの軸で総合的に評価・検討することが必要ではないか。加えて、エリアの価値を伸ばす視点を取り入れること、データをより精緻に把握できるようにすることで、施設の必要性の優先順位がさらに明確になるのではないか。
- ・公共が担うべき事業なのか、民間に委ねられるのかという線引きを明確にし、民間で対応可能な部分は民間に任せるべきではないか。

- ・「施設類型ごとのあり方検討の方針（案）」の集客施設において「必要性を判断し、市町や民間への移管、売却または廃止を検討する」とあるが、高校以外のすべての施設に言えることである。施設類型にかかわらず、不要な施設は保有すべきでなく、廃止や民間への移管、売却によるオフバランス化も検討できるのではないか。
- ・施設の総量適正化に当たっては、各施設の利用率や地域の特性、存在意義を踏まえた十分な検討が必要である。利用者がマイナス面だけでなく、利便性向上やより良い立地、デジタル化等、プラス面を感じられるようにすることが重要である。

論点3 維持管理コストの適正化と安全・安心への対応

- ・各建物のコスト構造や施設の必要性の検証が不十分ではないか。これらを踏まえた上で、稼ぐ方法や効率的に長く使える方法を検討し、経費の適正化を図るべきである。
- ・インフラについては、安全・安心を最優先にしつつ、コストの適正化は当然で、保全方法の変更や技術点検の手法など、ありとあらゆる可能な手段を取り入れるべきである。
- ・公共建築物やインフラ長寿命化の取組、予防保全管理等の専門的技術領域はファシリティマネジメント専門家の意見を聞きながら確実に進めていくべきである。

論点4 大規模施設のファシリティマネジメント

- ・財政負担が非常に大きく、今後の大規模修繕だけで数百億円かかることが予想され、現行ルールでは対応不可能であり、個別に検討すべきである。

論点5 民間活力等による施設の有効活用

- ・民間が引き取り、施設を自由に活用する方法や、ファンド、ネーミングライツ、コンセッションなど多様な手法をタブー無く取り入れていくべきである。
- ・民間のアイデアを引き出すためには、個別施設に関する各種データ（入場者数や収支状況、稼働率等）を公開する仕組みが必要である。
- ・道路愛称のネーミングライツなど、事業者によっては魅力を感じるのでないか。
- ・県と民間の人的交流を更に深めることが、将来に向けた持続可能なアイデアが出てくる種になるのではないか。

その他 実行組織の明確化

- ・施設が多岐にわたる中で、全体を統括し、ファシリティマネジメントの実行を管理する組織を明確にすべきである。
- ・大規模プロジェクトの着手に当たっては、第三者を含む調整委員会の承認がなければ予算が付かない仕組みを構築するなど、工夫が必要ではないか。